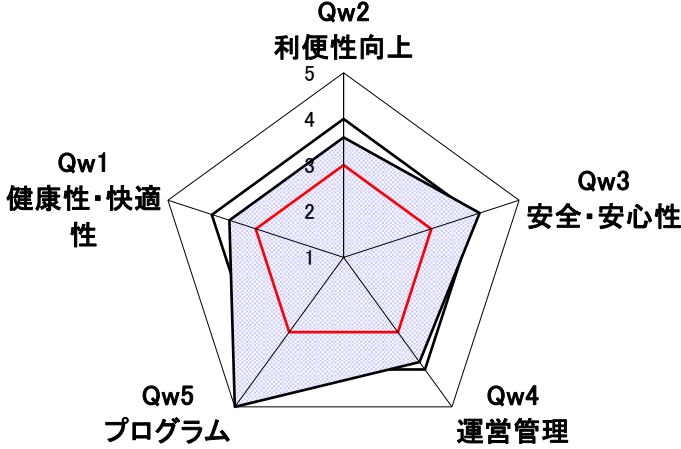
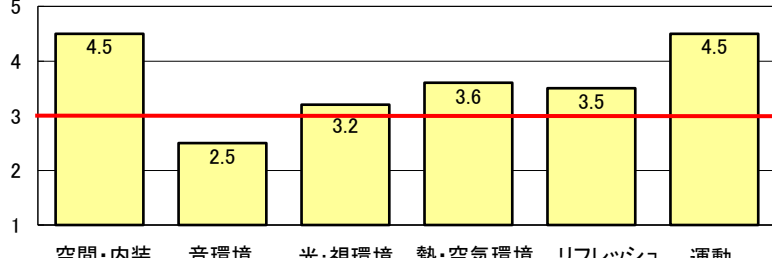
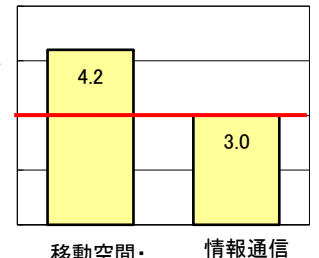
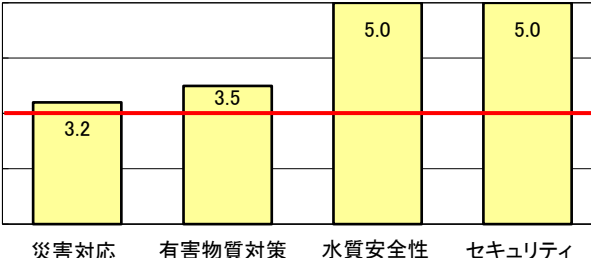
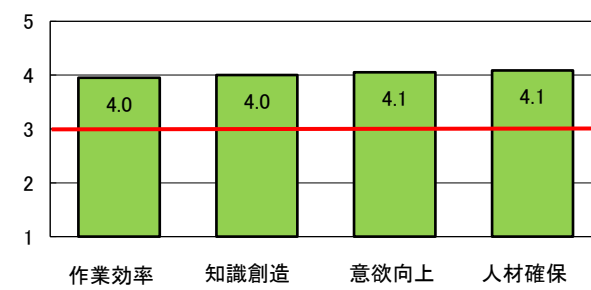
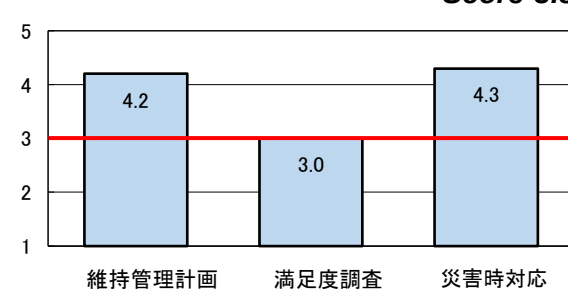
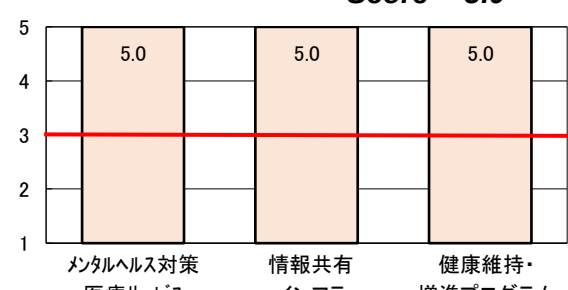


CASBEE®-ウェルネスオフィス 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-ウェルネスオフィス2021年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-WO_2021(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 評価パターン	
建物名称	太陽誘電株式会社 玉村工場 5号棟	階数	地上3F	評価対象 パターン3
建設地	群馬県佐波郡玉村町	構造	S造	
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	750 人	1-3 外観
地域区分	6地域	年間使用時間	8,500 時間/年(想定値)	
建物用途	工場、事務所	評価の段階	設計段階(竣工)評価	
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2024年12月25日	
敷地面積	12,398 m ²	作成者	株式会社フジター級建築士事務所	
建築面積	3,053 m ²	確認日	2024年12月25日	1-3 外観
延床面積	8,957 m ²	確認者	株式会社フジター級建築士事務所	

2-1 総合評価	2-2 大項目の評価(レーダーチャート)
Rank: A 73.2 /100  S ランク:★★★★★ > 75 A ランク:★★★★☆ ≥ 65 B+ランク:★★★★ ≤ 50 B-ランク:★★★ ≤ 40 C ランク:★★ < 40	 Qw1 健康性・快適性 Qw2 利便性向上 Qw3 安全・安心性 Qw4 運営管理 Qw5 プログラム

2-3 中項目の評価(バーチャート)			
基本性能			
Qw1 健康性・快適性 Score= 3.6		Qw2 利便性向上 Score= 3.6	Qw3 安全・安心性 Score= 4.1
			
運用管理		プログラム	参考: 知的生産性の視点に基づいた評価
Qw4 運営管理 Score 3.8		Qw5 プログラム Score = 5.0	
			

3 設計上の配慮事項		
総合		
太陽誘電のミッション “おもしろ化学で より大きく より社会的に” の遂行に貢献するスマートファクトリーをコンセプトに掲げ、環境やサステナビリティへの配慮に加え、エンゲージメントを向上させる計画としている。		
Qw1 健康性・快適性	Qw2 利便性向上	Qw3 安全・安心性
分割・拡張対応ができるような設備仕様とし、照明器具のグレアを制御している器具を採用している。天井高を2.7m以上とし自然光を取り入れ、外構に積極的に植栽を施すなど、快適性に配慮している。	共用部・専有部においても、会話を誘発するような動線上の工夫や会話の為の空間を考慮し、コミュニケーションを向上させている。EVの機能を向上させ、利便性を高めている。	F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気質環境に配慮している。セキュリティ面では、監視カメラや各種センサを採用し、安全・安心性に配慮している。
Qw4 運営管理	Qw5 プログラム	その他
維持保全については予防保全・事後保全を実施し、実施体制を確立している。消防訓練への積極参加を促す取組を実施し、災害時の対応に備えている。	健康診断・ストレスチェックの実施、カウンセラーのサポートにより、メンタルヘルス対策を行っている。運動を促進するクラブ活動があり、補助も行っている等、健康維持・増進プログラムを促進している。	-

CASBEE-ウェルネスオフィス2021年版
太陽誘電株式会社 玉村工場 5号棟

バージョン CASBEE-WO_2021(v1.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		
配慮項目	環境配慮の概要記入欄	評価点
総合評価		3.9
Qw1 健康性・快適性		3.6
1 空間・内装		4.5
1.1 レイアウトの柔軟性	1.1.1 空間の形状・自由さ	自由度が極めて高い開放的な執務空間がプラン可能
	1.1.2 荷重のゆとり	4,500N/㎡以上
	1.1.3 設備機器の区画別運用の可変性	空調・照明はグループ単位に分けて運用可能、冷暖の選択が可能
1.2 知的生産性を高めるワークプレイス		知的生産性を高めるワークプレイスを計画し、改善体制がある
1.3 内装計画	1.3.1 専有部の内装計画	インテリアパースによる事前検証の実施 等
	1.3.2 共用部の内装計画	統一感のある内装材を使用 等
1.4 作業環境	1.4.1 オフィス什器の機能性・選択性	
	1.4.2 OA機器等の充実度	Wi-Fi環境、業務用携帯電話を整備
1.5 広さ		執務スペース6㎡/人確保、在宅勤務制度の導入
1.6 外観デザイン		沿道には植栽を設け、修景に寄与 等
2 音環境		2.5
2.1 室内騒音レベル		1.0
2.2 吸音		床、天井の二面に吸音材を使用
3 光・視環境		3.2
3.1 自然光の導入		1.0
3.2 グレア対策	3.2.1 開口部のグレア対策	3.0
	3.2.2 照明器具のグレア対策	プリズムカバーにより十分にグレアを制御している器具を採用
3.3 照度		全般照明方式で机上面照度500lx以上1000lx未満
4 熱・空気環境		3.6
4.1 空調方式及び個別制御性		3.0
4.2 室温制御	4.2.1 室温	3.0
	4.2.2 外皮性能	BPI _m =0.69
4.3 湿度制御		3.0
4.4 換気性能	4.4.1 換気量	換気量30㎡/h人を確保
	4.4.2 自然換気性能	方位の異なる壁面への換気窓を設置
5 リフレッシュ		3.5
5.1 オフィスからの眺望		天井高2.7m以上
5.2 室内の植栽・自然とのつながり		2.0
5.3 室外(敷地内)の植栽・自然とのつながり		3.0
5.4 トイレの充足性・機能性		余裕を持った器具数の設置、標準以上の配慮を行っている
5.5 給排水設備の設置自由度		専有部にパントリーを設置
5.6 リフレッシュスペース		3.0
5.7 食事のための空間		3.0
5.8 分煙対応、禁煙対応		敷地内完全禁煙
6 運動		4.5
6.1 運動促進・支援機能		運動を促進・支援する装備がある
6.2 階段の位置・アクセス表示		階段の使用を促進する取組、アクティブデザインの採用
Qw2 利便性向上		3.6
1 移動空間・コミュニケーション		4.2
1.1 動線における出会いの場の創出		会話を誘発するような動線上の工夫や会話の為の空間を考慮
1.2 EV利用の快適性		安全・耐震基準への対応 等
1.3 バリアフリー法への対応		3.0
1.4 打ち合わせスペース		専有部・共用部に打合スペースを計画、会議予約システムの導入
2 情報通信		3.0
2.1 高度情報通信インフラ		3.0

Qw3 安全・安心性			4.1
1 災害対応			3.2
1.1 耐震性	1.1.1 躯体の耐震性能	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する	4.0
	1.1.2 免振・制振・制震性能		3.0
	1.1.3 設備の信頼性		3.0
1.2 災害時エネルギー供給			3.0
2 有害物質対策			3.5
2.1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を全面的に採用	4.0
2.2 有害物質を含まない材料の使用			3.0
2.3 有害物質の既存不適格対応	2.3.1 アスベスト、PCB対応		-
	2.3.3 土壌汚染等対応		-
3 水質安全性			5.0
3.1 水質安全性		水質安全性対策を全て満たす	5.0
4 セキュリティ			5.0
4.1 セキュリティ設備		監視カメラ、各種センサの設置、入退館システムの導入 等	5.0
Qw4 運営管理			3.8
1 維持管理計画			4.2
1.1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した取組が標準以上	4.0
1.2 維持管理用機能の確保			3.0
1.3 維持保全計画		維持保全計画があり、予防保全・事後保全の実施を計画	5.0
1.4 維持管理の状況	1.4.1 定期調査・検査報告書		-
	1.4.2 維持管理レベル		-
1.5 中長期保全計画の有無と実行性		中長期保全計画あり、実行する体制を確立	5.0
2 満足度調査			3.0
2.1 満足度調査の定期的実施等			3.0
3 災害時対応			4.3
3.1 BCPの有無		BCP計画の作成、設備の整備、運用状況のチェック・更新の実施	4.0
3.2 消防訓練の実施		消防計画書の作成、訓練への積極参加を促す取組を実施	5.0
3.3 AEDの設置		AEDの設置、利用者への教育活動の実施	4.0
Qw5 プログラム			5.0
1 メンタルヘルス対策、医療サービス		健康診断、ストレスチェック、独自のメンタルヘルス対策を実施	5.0
2 情報共有インフラ		ビル内の取り組みを周知するサイトを設置 等	5.0
3 健康維持・増進プログラム		運動を促進するクラブ活動があり、補助も行っている 等	5.0